

卷頭  
言

## 混沌とする世界情勢



| 会長 山崎 學

新年おめでとうございます。

新型コロナウイルス感染症は終息する気配も見せず、ロシアによるウクライナ侵攻は膠着状態のまま新年を迎えました。中国発といわれている新型コロナウイルス感染症に対するゼロコロナ政策の失敗の中で三期目を迎え、皇帝を目指していた習近平にとって自由を求める若者の叫びはまさに天安門事件の再来の気がします。天安門事件は武力によって大勢が見守る中で鎮圧されました。監視社会をつくることで共産党による一党独裁が100年続きましたが、SNSという情報交換手段を得たいま、今後この運動がどのように展開していくのか見ものです。加えて党人事での太子党（紅二代）による共産主義青年団（共青团）に対する抑え込みは、共青团が学生と連携することによって文化大革命のような国民運動に発展していくのかもしれませんが。

アメリカに目を向けるとハタチと勢いで世界秩序を保っていたトランプ政権が退場し、バイデン政権になった途端に世界情勢が大きく動きました。もともと民主党が始めた戦争を共和党が終わらせるという過去の例を引くまでもなく、唐突ともいえるアフガニスタン撤退はさながら南ベトナム政権崩壊時を思い出させました。「すたこらさっさ」と逃げ惑うアメリカ兵の姿は日米安保条約を要としている我が国の国防に大きな不安を与えることになりました。唐突な撤退でアフガンに残したアメリカの近代兵器はそのままタリバンの手に渡り、タリバンは一銭も払わずして軍の近代化を成し遂げました。再び政権を取り戻したタリバンによるイスラム原理主義は、日常生活において女性の権利を大きく侵害しています。2021年10月、したたかなプーチンはロシア西部で大規模な軍事演習をするといって、バイデン政権の出方を見守っていましたが、アメリカがなんの反応も示さなかったのを見て2022年2月にウクライナ侵攻に踏み切りました。バイデン政権をはじめとして、さらなる進行におびえたEU諸国等の民主主義国家はウクライナ支援を表明しましたが、イラン、インドといったロシアに兵器を依存している国は微妙な立ち位置にいますし、同じ共産主義国家でロシア産天然ガスを大量に消費している中国は先進諸国の武器弾薬が長期戦で枯渇することを座して待っています。プーチンは長期戦になった場合に戦術核を使用すると脅し、このブラフにおびえたアメリカはさらに及び腰になり、ウクライナに対する最新兵器供与に消極的になり始めました。トランプ政権下で戦争をしなかったアメリカは大量の兵器のストックを抱えていましたが、ウクライナ支援でストックを使い果たし、半導体不足も相まって自国防衛体制にも影響が始まっています。アメリカの若者の血を一滴も流さないで兵器を大量に消費するこの紛争は、大統領選挙の太いスポンサーである産軍複合体にとっては都合の良い紛

争なのかもしれません。KGB出身のプーチンは権力の怖さをよく知っていますし、副首相だった父が毛沢東の逆鱗に触れて失脚し、家族が悲惨な目にあった習近平は権力の座から滑り落ちることの怖さを痛いほど知っており、権力に対する執念は人一倍強く、兩人とも疑心暗鬼の中で権力にしがみついているのが手に取るように分かります。一方で、安倍晋三という逸材を失った日本丸は行き先の分からない航海に出てしまいました。いまこそ少子高齢化に対して持続可能な社会保障制度をつくりながら、他国からの侵略に対して国土を守り、国民の財産と生命を守ることの難しさを平和ボケしている多くの日本国民に知らしめることが必要です。

こうした社会情勢の中で、今年後半には2024年に行われる医療・介護・障害報酬改定というトリプル改定の審議が始まります。地域精神科医療体制を持続可能なものにするために、執行部一同気を引き締めてこの難局に対処していきたいと思っています。